

二〇二六年三月二一日

落椿空き家となりし隣家かな
うぐひすや日課の朝の墓掃除
石仏に野の花手向く彼岸寺
魁て胴吹き桜咲きにけり
春雨に鉾立ち並ぶ杉美林
永き日のラッパ練習夕河原
さくら貝膝折り拾ふ老母かな
仏の座浄土をなせる放置畑
のんちやんの顔だしさうな春の雲
納戸の戸ご機嫌斜め菜種梅雨
山山のひかり集めて春の川
新玉葱どこまで剥くか迷ひけり
春眠のケトルの笛に覚めにけり

二〇二六年三月一九日

仏塔の檜皮葺へと春の雨
菜の花の香り溢るる里の畑
留守中のチラシ広げる春炬燵
朽ちしかと見し老幹の芽吹きけり
墓あればこそみな集ふお中日
珠水を産毛に湛へ猫柳
春の浜天使の梯子届きけり
駄菓子屋が集合場所よ春休み
鳴引いて細波ばかり山の池
春光や水車のまはる蕎麦の里
初音聞く墓に聞こえたかと問ひぬ
呆け封じならばと詣で青き踏む

二〇二六年三月一八日

百千鳥ゲートボールを囃すやに
水音に和すごと揺るる猫柳
春雨の暮色に沈む峡の駅

うつき
青海
康子
明日香
和繁
むべ
勉聖
やよい
たか子
澄子
もとこ
あひる
せいじ

風民
花茗荷
せいじ
ぽんこ
明日香
せいじ
むべ
なつき
やよい
澄子
もとこ
うつき
やよい
澄子
うつき

二〇二六年三月一七日

手庇に遙けき沖や鳥雲に
一声を湖に落として鳥帰る
石河原みどりに埋め蓬生ふ
春風や被災の能登に頑張れと
清国と刻む墓標に草青む
ナナハンを停めて詣でし彼岸寺
水音に頷いてをる猫柳
弧を連ね延びる渚や逗子の春
ミニカーを並べ診察室長閑

二〇二六年三月一六日

大木の枝に引つかかる朧月
てんと虫ら組んずほぐれつ畦親し
日を弾くビニールハウス雪解島
青空に風いなしをる白木蓮
花辛夷散る時白き羽根となり
太腕の漁師の包む白子干
花菜畑風に光をまき散らし
木の幹も名札着けてる新学期
大公孫樹溢るる新芽仰ぎけり

二〇二六年三月一五日

春耕やの幾何模様なす谷戸の畑
働哭と鳴咽の縮図涅槃絵図
蛇行しつ綺羅遡る春の川
啓蟄や獅子奮迅のシヨベルカー

毎日句会みのる選・二〇二六年三月二三日

やよい
澄子
むべ
花茗荷
ほんこ
山椒
あひる
むべ
よし女

風民
むべ
うつき
山椒
康子
あひる
こすもす
むべ
伸枝